



東海大学医学部附属八王子病院

脳神経外科 講師

氏名：青木（旧姓 小野田） 吏絵

アオキ オノダ リエ

私のキャリアパス

2005 年に日本医科大学を卒業し、千葉県国保旭中央病院で初期研修を開始、医師としてのキャリアをスタートさせることとなりました。

当初自分は精神科志望でしたが、旭中央病院で出会った脳神経外科の先生方が例外なく全員とても個性的で、知的で、信念を持っていて、患者さんの人生にどっぷり浸かっていける人達で、カルテのことをアルバムという人で、フットワークが軽くて、技術があって器用で、後輩思いで、どこか不思議で、人間臭くて、熱くて、などなど、ここでは言い表しきれない魅力的な人間性を持っていて、「この一員になりたい」、「脳神経外科になりたい」と思うのにそう時間はかかりませんでした。

自分は旭中央病院で初めての女性脳神経外科医だったようでしたが、そのことが理由で躊躇したことは一切ありませんでした。その後も仕事をする中で気に留めたこともありませんでした。しかし実際には、特に脳神経外科になりたての頃は、女性という見た目判断だけで、「手術なんかしないだろう」「あなたが脳神経外科医なわけないだろう」、「脳の手術なのに女医に受け持たれるのは不安だ」「当直やオンコールをハードにこなすことはしていないだろう」など、患者さんのみならず他科の医師や他病院の同業者や様々な医療関係者から冷たい言葉を浴びせられたことは多々ありましたが、自分は幸い脳神経外科医であるため、手術手技や周術期管理などやるべきことを丁寧に着実にすれば、かえって信頼をしっかりと得られると思っていました。時には落ち込むこともありましたが、幸い周りの先生方の支えもあり、心折れることは一度もありませんでした。自由にやらせていただく環境のおかげで、手術に対する情熱がさらに深まり、多くの手術経験を積むことができました。

2011 年脳神経外科専門医取得し、サブスペシャリティについて考えるようになった頃、当初旭中央病院で指導を受けていた Kittipong 先生の血管解剖に対する情熱や血管内治療そのものにとっても強く惹かれるようになりました。2013 年弟子入り宣言をし、その年に血管内専門医を取得。師匠を追いかける形で東海大学へ入局しました。それ以降は多くの血管内手術の経験を積むとともに、血管解剖の研究会や国際学会への参加など、臨床だけでなく学術的な活動にも積極的に取り組んでいきました。PLANET JAPAN 事務局の運営(2016)を通じて世界各国の血管内治療医の先生方との交流や、BSNET や JSNET 同時通訳、さらには WFITN の日本招致のための『O Mo Te Na Shi』プレゼンテーション(2017)など、

とても貴重な体験をたくさんさせていただきました。2018年東海大学八王子病院へ移動し、2020年に博士号を取得、講師へ就任。2022年に血管内治療指導医を取得し、指導的な立場に移行しています。最近では、脳外科医としての技術の向上に努めるとともに、少しずつではありますが師匠から教わった血管解剖の知識や学ぶことの楽しさを次世代の先生方に伝えるべく、研究会を立ち上げています。

今後の抱負と会員へのメッセージ

今後は、私は亡き師匠から教わったことを次の世代に伝えることで、師匠に恩返しをしたいと考えています。「知識や技術は積極的に下の世代に教育し継承していくことが、医学の発展につながる。後輩たちが自分よりも早い段階で進化していくことこそが、医学の進歩の一つの形である。そして、その知識や技術の共有は、一つの自分の施設内にとどまるべきではなく、施設を越えて同じ志を持つ同志に分け隔てなくされるべきだ。広く教育の種を蒔き、多くの場所で芽吹かせることが、最も素晴らしいことだ」これは、師匠がAVANCEなどを立ち上げた際によく語っていた言葉です。私も、その精神を受け継ぎ、将来的には、その種まきの一端を担いたいと思っています。

また、自分が輝くことで、もし学会の仲間や後輩に勇気や希望を与えることができるのであれば、何か発信できるものがあるとするならば、それは私にとって大きな励みとなります。これからも挑戦し続け、成長し続けることで、少しでも多くの人に良い影響を与えられるよう努力してまいります。

